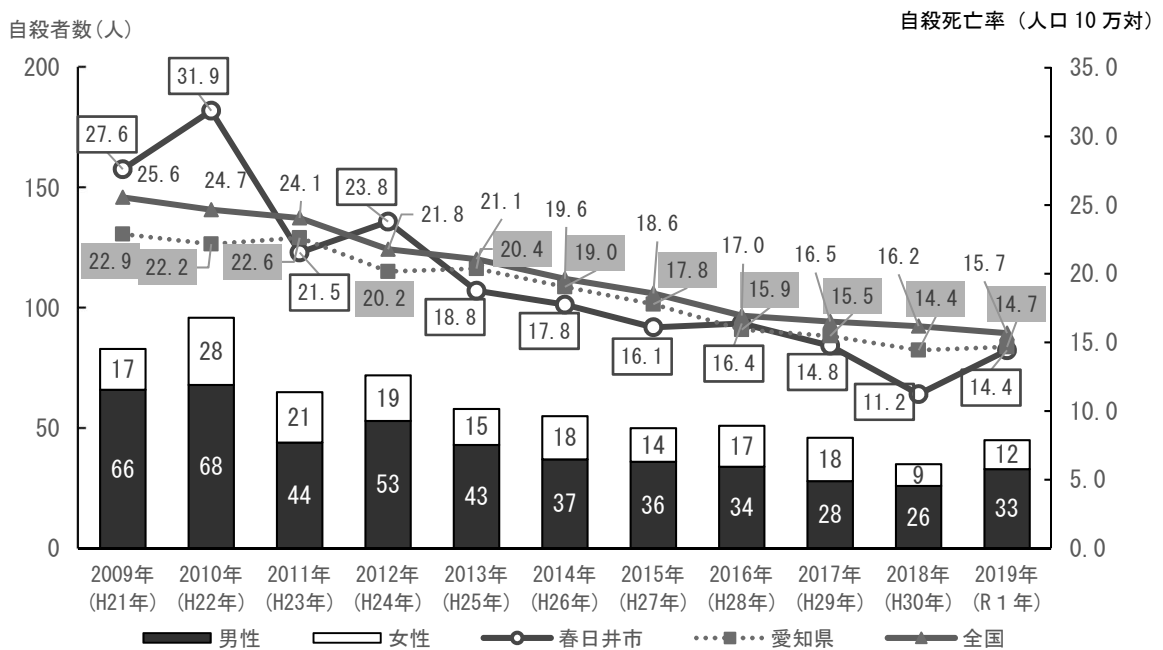


春日井市における自殺の現状について

1 自殺者数・自殺死亡率

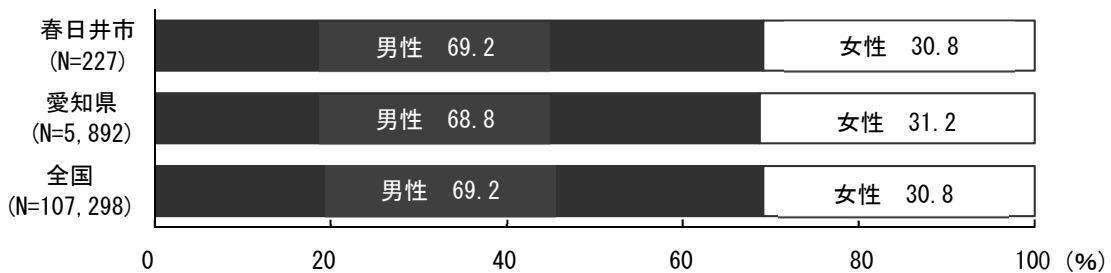
- 本市の年間自殺者数は、平成 22 年以降減少傾向にあるが、令和元年は前年比で 10 人増となり、45 人となった。
- 自殺死亡率（人口 10 万人当たりの自殺者数）は、令和元年で 14.4 となり、愛知県の 14.7 や全国の 15.7 と比較してやや低い状況にある（図表 1）。
- 自殺者数の割合を男女別で見ると、愛知県や全国と同様に、男性が女性を大きく上回っている（図表 2）。

【図表 1】自殺者数・自殺死亡率の推移



(出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)

【図表 2】男女別の自殺者割合（2015～2019 年合計）

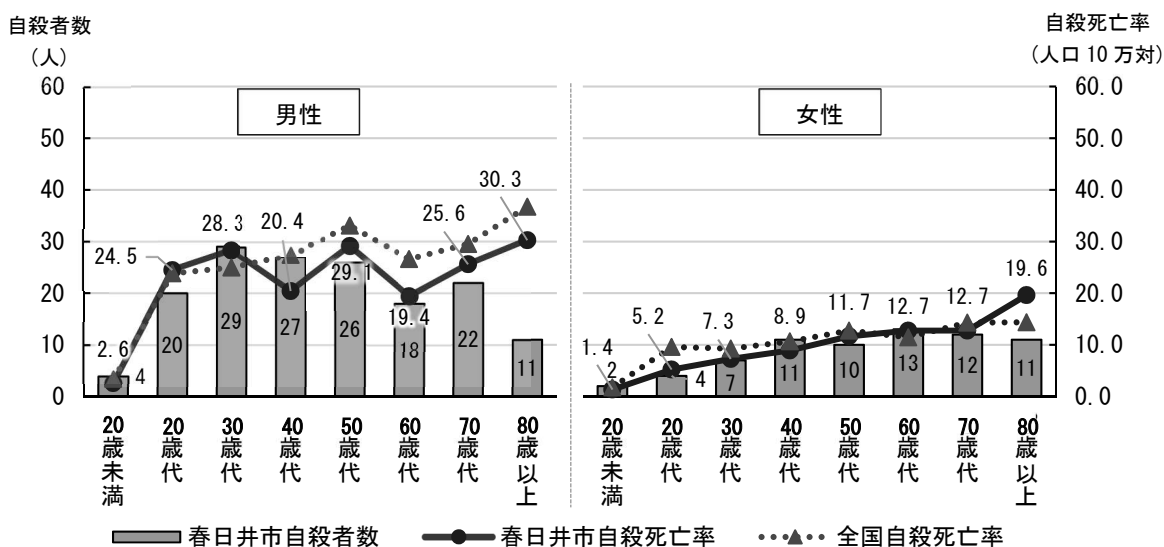


(出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)

2 年代別の状況

- 年代別の自殺者数（2015～2019年合計）について、男性は30歳代が最も多く、次いで40歳代、50歳代の順で多くなっている。また、30歳代男性は自殺死亡率（2013～2017年合計）が、全国より高くなっている（図表3）。
- 女性の自殺者数は、年代による大きなばらつきはなく、最も多いのは60歳代となっている。自殺死亡率は、80歳以上が全国より高くなっている（図表3）。

【図表3】年代別の自殺者数・自殺死亡率（2015～2019年合計）

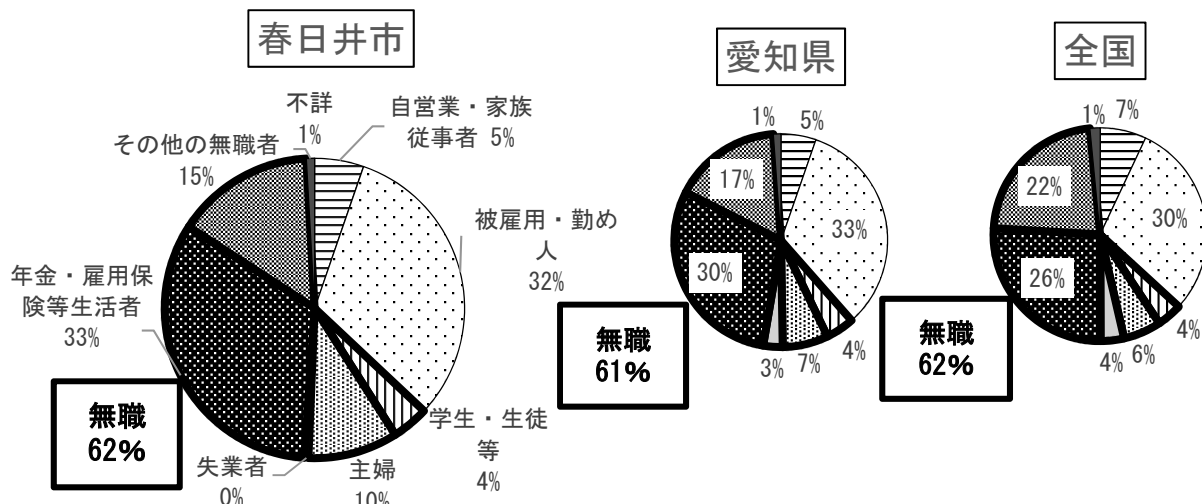


（出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」、総務省「住民基本台帳に基づく人口」）

3 職業別の状況

- 「学生・生徒等」や「主婦」を含む「無職」の割合が62%を占めている（図表4）。
- 愛知県や全国と比較して、「主婦」と「年金・雇用保険等生活者」の割合が高くなっており、「失業者」の割合が低くなっている（図表4）。

【図表4】職業別の自殺者割合（2015～2019年合計）

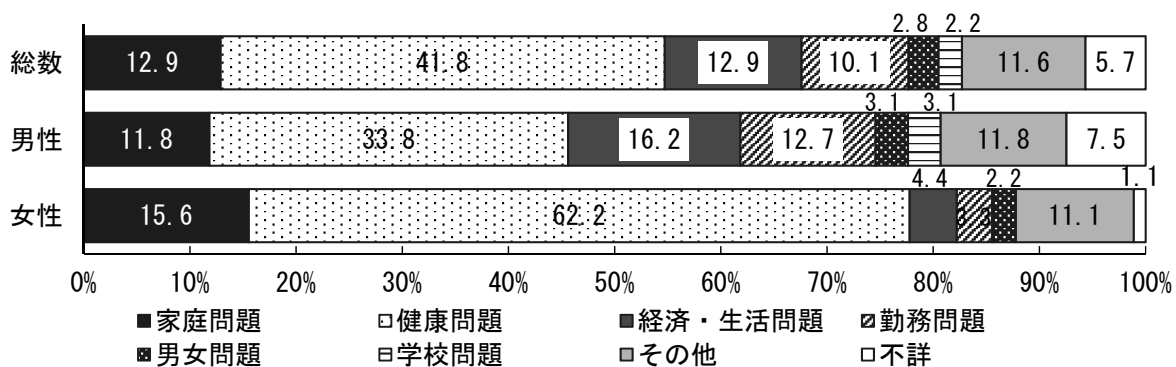


（出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

4 原因・動機別の状況

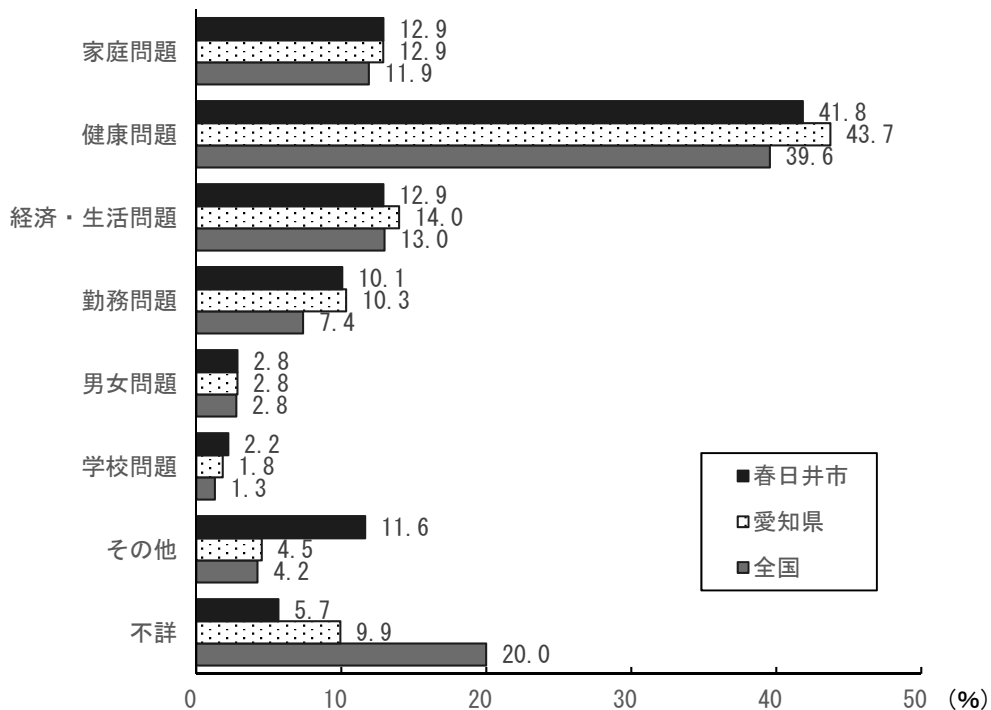
- 「健康問題（うつ病や身体の病気など）」の割合が最も高く、次いで「家庭問題」と「経済・生活問題」の割合が高くなっている（図表5、6）。
- 男女別では、男性は女性に比べて「経済・生活問題」、「勤務問題」の割合が高く、女性は男性に比べて「家庭問題」、「健康問題」の割合が高くなっている（図表5）。

【図表5】原因・動機別・男女別の自殺者割合（2015～2019年合計）



（出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

【図表6】原因・動機別の自殺者割合の比較（2015～2019年合計）

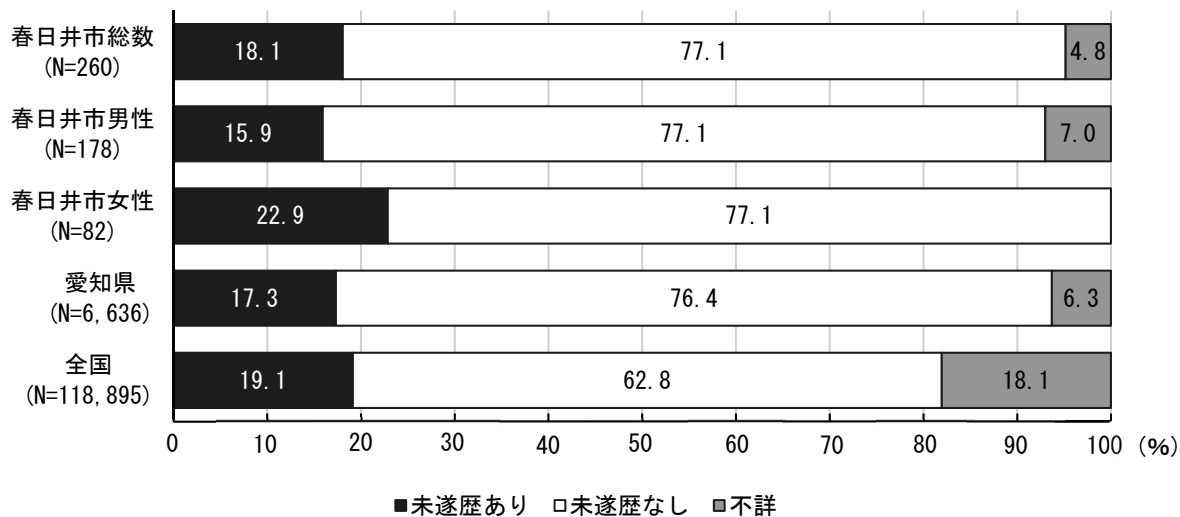


（出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

5 自殺未遂の状況

- 自殺者の約77%が「自殺未遂歴なし」となっており、自殺者の多くが1回の企図で既遂している（図表7）。

【図表7】自殺未遂歴有無別の自殺者割合（2015～2019年合計）

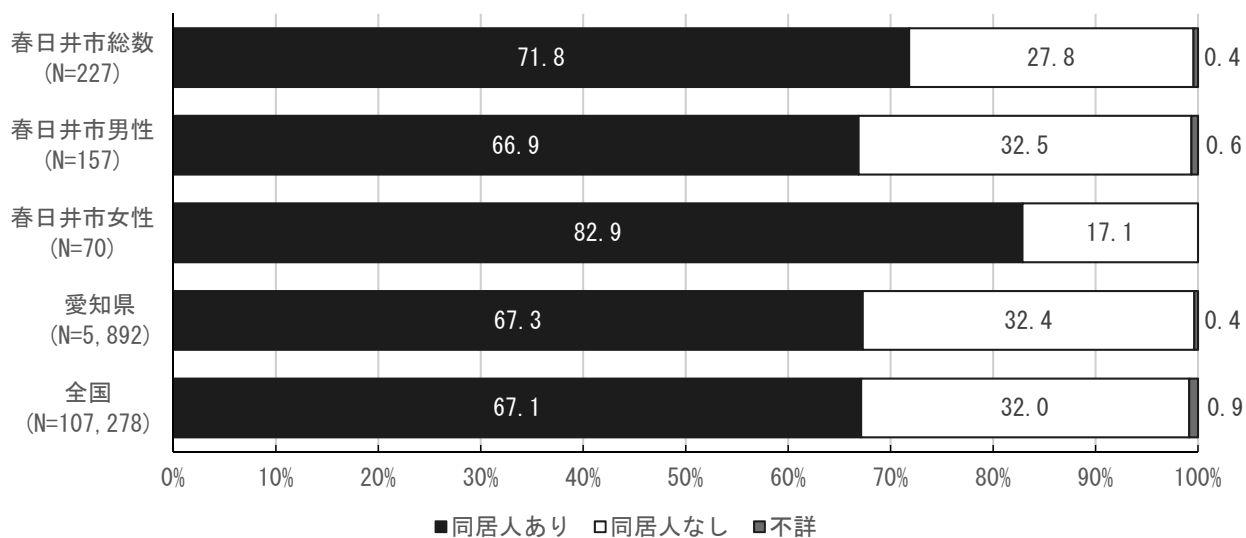


（出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

6 同居人の有無の状況

- 自殺者の約72%が「同居人あり」となっており、男性より女性の方がその割合は高くなっている（図表8）。ただし、全世帯における同居人有無の割合（平成27年国勢調査）は、「同居人あり」が約70%であることから、自殺は同居人の有無にかかわらず発生していると考えられる。

【図表8】同居人有無別の自殺者割合（2015～2019年合計）

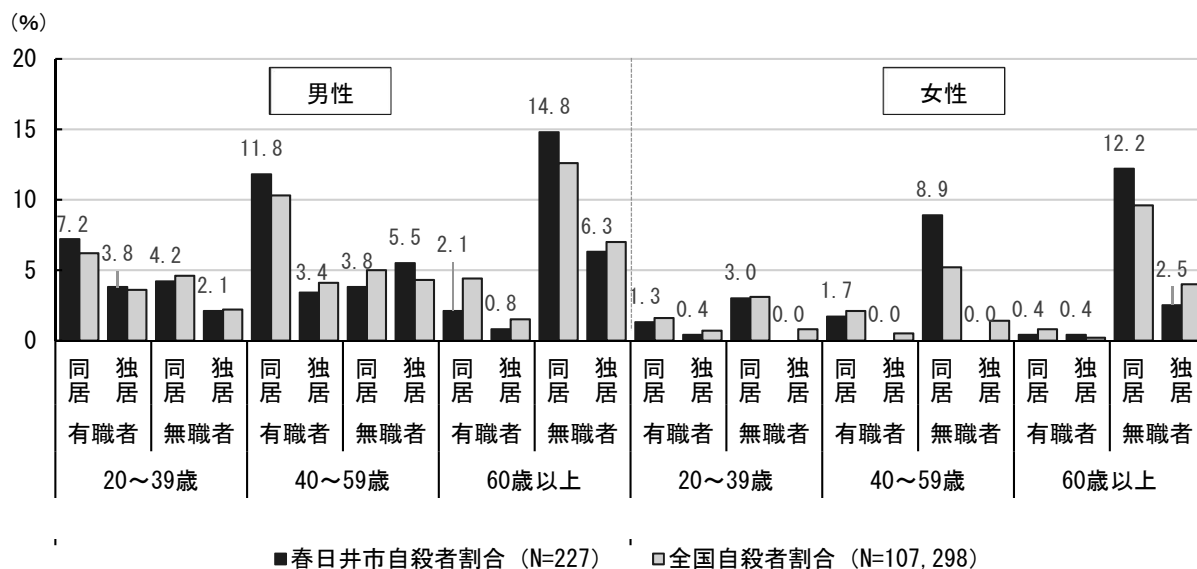


（出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

7 自殺の傾向

- 「60歳以上の男女の無職者で、同居人がいる」という高齢者や、「20～59歳の男性の有職者で、同居人がいる」という働く世代、「40～59歳の女性の無職者で、同居人がいる」という40～50歳代の女性が多い状況となっている。(図表9)。
- NPO法人自殺対策支援センターライフリンクの全国調査によると、これらの区分の背景にある主な自殺の危機経路には、高齢者では失業(退職)からの生活苦や身体疾患などがあり、働く世代では過労や職場の人間関係の悩みなどからのうつ状態、40～50歳代の女性では家族間の不和や近隣関係の悩みからのうつ状態があるとされる。

【図表9】自殺の傾向(男女別・年代別・職業の有無別・同居人の有無別の自殺者の特別集計、2015～2019年合計)



(出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2019)」)